

## マーケット市場(バンコク伊勢丹・生鮮品売り場)への視察

大山 晃

伊勢丹は日本の百貨店である。日本と似たような各種野菜、果物などが並んでいる。タイは年間30℃ほどで四季がなく、日本でとれるイチゴ、リンゴや柿などがとれない。売られているものにバナナがあったが、小さく青いため、日本人好みではないと思われる。富裕層に人気があり、日本人客が多いようであるが、タイ人の収入からすれば、決して安くはない買い物であろう。



## ジェトロ・バンコク(農産物貿易・県産品販路拡大支援)への視察

大山 晃

最初にジェトロ、責任者:堀家氏よりタイの日本食事情に関する説明を受けた。そのあと、ジャルックス マネージャー長谷川氏より日本の農産物などの輸出入について説明を受けた。最後に伊勢丹バンコクに移動し日本食材の輸入販売状況を視察した。

タイにおける農産物貿易で海外との輸出入であるが、輸出上位5品目は1位天然ゴム(乾燥)・2位コメ・3位天然ゴム・4位鶏肉缶詰・5位精製糖である。輸入上位5品目は、1位大豆油粕・2位大豆・3位綿花・4位小麦・5位調製食料品である。

日本に特定すると日本への輸出上位5品目は1位鶏肉調整品・2位天然ゴム・3位砂糖・4位えび調整品・5位えびである。日本から輸入上位5品目は1位かつお、まぐろ類・2位豚の皮・3位サバ・4位さけ、ます・5位ソース混合調味料である。

タイ産の青果物については日本でも人気があり輸入量は増えているようである。青果物などを輸入しようと思えば業者がたくさんあるので、簡単に輸入できると思う。しかし、青果物は日持ちがしないため、経費や品の数量を考えて販売計画を十分検討する必要がある。また、恒常的に売なのか、イベント的に扱うのかで大きく違ってくる。よって、地元の直売所などで販売する場合は関係者と事前の協議を十分行う必要がある。



## 3日目

## バンコク日本人学校(小・中学校)への視察訪問

三田 敏和

学校は1956年(昭和31年)に創設された世界で最も長い歴史を誇る日本人学校で1972年にバンコク日本人学校と改称された。1974年にタイ国私立学校法に基づき政府から正式に義務教育学校(小・中学校)として認可を受けている。平成25年度は85学級、児童生徒数2913名で1年生は14クラスにのぼる。147台の送迎バスが活躍している。先生は都道府県の試験を受け、文科省が選考し、現在129名の教員と3名の事務員を派遣している。福島校長(宮崎県出身)は第26代目校長となる。また、1年10組の山谷孝司先生(行橋市出身)は、友枝小学校に過去赴任の経験があることを聞いて驚きであった。

特色ある教育課程として、土曜日の登校、タイ語(週1時間)はタイ政府の義務付け、英会話授業(週2時間)、水泳指導(週1時間)で小5の林間学校では遠泳(500m)をする。



## タイ人学校「ワタナ ウイッタヤ アカデミー(私立女子中学)への視察訪問

三田 敏和

ここは小学生1395名、中学生708名からなる全寮制の私立女子小中学校である。偶然にも長崎へ留学した中学生がいて、言葉が通じることが多く救いであった。今回は事前に町内の小学校へお願いして、友枝小学校には絵手紙、西吉富小学校にはビデオレターをお願いした。絵手紙は、日本語授業の中で紹介して頂くことができ、授業見学が有意義に行われた。ビデオレターは時間的に制約があり、お渡しをするだけに終わったのが、残念であった。またタイの子どもたちより後日、町内の小学校へお返しプレゼントをお願いした。今後、上毛町の海外派遣事業が近く安全な国、タイとの交流が出来れば、多くの子どもに参加の機会が与えられ、自身の国際交流に役立つ事業発展することを期待したい。

